

取扱説明書

ご使用の前に必ずお読み下さい。

製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。

URL <http://www.dyden.jp/network/>

安全にご使用いただくために(使用上の一般的な注意事項)

指定用途以外には使わないで下さい!

10/100/1000BASE-Tの光変換以外の用途にはお使いにならないで下さい。
 また仕様の項目を超えない範囲でお使い下さい。

分解しないで下さい!

取付けてあるカバー類は取り外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

製品は大事に扱ってください!

頻って落としたり、ぶついたりすると製品の性能を低下させますので十分にご注意ください。

異常が起きたら直ちに使用中!

使用上、煙・臭い・発火などの異常が起きた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい!

本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

電波障害自主規制について!

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本製品のご使用にあたって!

本製品は、人命に関わる場合(医療、航空、原子力、軍事等)や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組み込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。従って、これらのシステムへの使用や機器に組み込みで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じた場合、かかる損害が直接的、間接的または付随的のものであにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。お客様ご自身の責任において、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用される場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご注意ください。

大電株式会社 弊社が製品に貼付する取扱説明書は環境に配慮したインクを使用しております。

警告

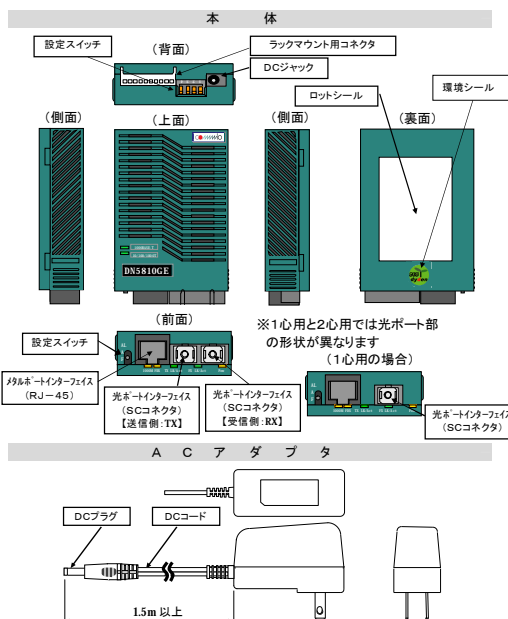
- ・交流100~240V以外で使用しないで下さい。指定電圧以外で使用するとは火災や感電、故障の原因となります。
- ・ACアダプタは専用のものを使用して下さい。火災や感電、故障の原因となります。
- ・ACアダプタはACコンセントに確実に差込んで下さい。ACアダプタの刃に金属などが触れるとは火災や感電、故障の原因となります。
- ・水につけたり、水をかけたらないで下さい。漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・専用ACアダプタと他社の機器とを接続しないで下さい。機器の故障及び火災や感電、故障の原因となります。

・**静電気注意!**
 本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分・UTPポート・部品などに素手で触れないで下さい。

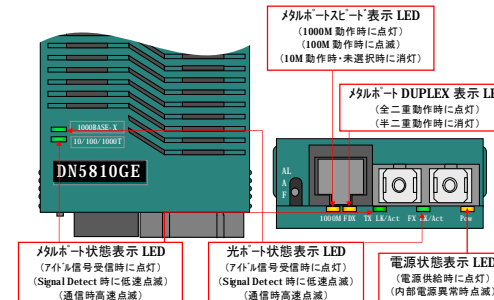
注意

- ・ACアダプタを抜くときは、アダプタ本体部を持って抜いて下さい。電源コードを引っ張るとコードの損傷が発生し火災や感電の原因となることがあります。
- ・濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないで下さい。故障や感電の原因となることがあります。
- ・本機をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。ケーブルの被覆が溶けて火災や感電の原因となることがあります。
- ・本機を直射日光の当たる所や温度の高い所で使用しないで下さい。内部の温度が上がり火災や故障の原因となることがあります。
- ・放熱スリットや隙間に針金や金属類などの異物を入れないで下さい。内部に接触電圧が、故障の原因となることがあります。
- ・本装置をほごりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。火災や故障の原因となることがあります。
- ・本装置を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。
- ・本装置はクラス1レーザ製品です。クラス1レーザは合理的に予想可能な運転条件下で安全であるレーザです。
- ・光コネクタ清掃のお願い。
 本装置は光コネクタの清掃に光コネクタを経由して光信号を伝送しています。光コネクタが埃等で汚れている場合、正常に光信号を伝送できないだけでなく、光トラップにより汚りが付着し、簡単に清掃ができなくなるため必ず光コネクタ清掃後に接続しよお願いします。

1. 装置各部の説明/付属品

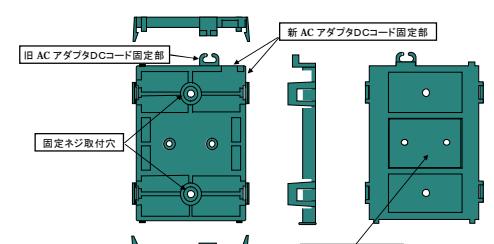


表示 L E D

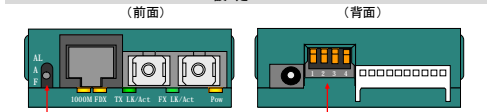


※Signal Detect:対向機器から信号を受信している状態です。Link Up状態とは異なります。

固定用ホルダ



設定 SW



- スイッチの設定と動作モード (前面スイッチ)
- AL: 光ポート Autonegotiation&LPT(Link Pass Through)有り設定
 光ポートが Autonegotiation モードかつ MC は LPT 動作有効になります。
 - A: 光ポート Autonegotiation&LPT 無し設定
 光ポートが Autonegotiation モードかつ MC は LPT 動作無効になります。
 - F: 光ポート 1000M 固定&LPT 無し設定
 光ポートが 1000M 固定モードかつ MC は LPT 動作無効になります。

LPT 動作の詳細については 7 頁参照

スイッチの設定と動作モード (背面スイッチ)

- 1: Autonegotiation モード
 UTP 側の通信速度及びモードを接続先の機器に合わせて自動設定します。スイッチ押し時が「ON」、押し下時が「OFF」となります。
 対向器がアイドル信号を受信しない限りは、信号の送信をしないような機器 (DN-2600 シリーズ) をリンク運動設定で使用する場合など)とはリンクアップできませんのでご注意ください。
- 2: 1000M モード
 UTP 側の通信速度を 1000Mbps (1000BASE-T) に固定します。「Autonegotiation」を OFF にしないと有効になりません。スイッチ押し時が「ON」、押し下時が「OFF」となります。
- 3: 10M/100M モード
 UTP 側の通信速度を 100Mbps (100BASE-T) もしくは 10Mbps (10BASE-T) に固定します。「Autonegotiation」および「100M」とともに OFF にしないと有効になりません。スイッチ押し時が「100M」、押し下時が「10M」となります。
- 4: Duplex モード
 UTP 側の通信モードを全二重 (Full Duplex) もしくは半二重 (Half Duplex) に固定します。「Autonegotiation」および「100M」とともに OFF にしないと有効になりません。スイッチ押し時が「Full Duplex」、押し下時が「Half Duplex」となります。

磁石ケース&取付ネジ (M2.5 x 1.3mm, 2 本)



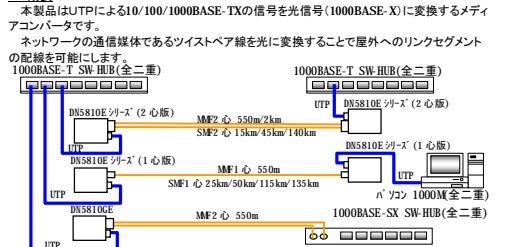
別売品

- 下記部材については、添付していませんので別にご準備下さい。
- ・ツイストペアケーブル: 10/100M動作時
 TIA/EIA-568-A に適合するカテゴリ5以上のUTPケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを接続したものを使用して下さい。
 - ・モジュラーコネクタはストレーテッドケーブル、クロス接続のどちらでも使用できます。
 - ※UTPケーブルは100m以下の長さでご使用下さい。
 - 1000M動作時
 TIA/EIA-568-B に適合するエンハンストカテゴリ5以上のUTPケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを接続したものを使用して下さい。
 - ・モジュラーコネクタはストレーテッドケーブル、クロス接続のどちらでも使用できます。
 - ※UTPケーブルは100m以下の長さでご使用下さい。
 - ※モジュラーコネクタの接続は7芯8ピン(8ピン全芯)品を使用して下さい。

- コネクタ付光コード:
- 【MMファイバ用(G)の場合】
 石英系マルチモード光ファイバ(0.85μm 波長帯における伝送帯域が、500MHz・km 以上のもの)にSCコネクタ (JIS C 5973 F04 形) を取付けたものをご使用下さい。
 - 【MMファイバ用(WG, SG2)の場合】
 石英系マルチモード光ファイバ(1.3μm 波長帯における伝送帯域が、500MHz・km 以上のもの)にSCコネクタ (JIS C 5973 F04 形) を取付けたものをご使用下さい。
 - ※光コネクタは反射減衰量 22dB 以上のPC研磨をご使用下さい。
 - (平面研磨や斜め研磨のコネクタを使用した場合、通信障害を発生する可能性があります)
 - 【SMファイバ用 (SG2, L, WS, WL) の場合】
 石英系シングルモード 1.31μm 帯ゼロ分散形光ファイバにSCコネクタ (JIS C 5973 F04 形) を取付けたものをご使用下さい。
 - ※光コネクタは反射減衰量 22dB 以上のPC研磨をご使用下さい。
 - (平面研磨や斜め研磨のコネクタを使用した場合、通信障害を発生する可能性があります)

固定用ねじ
 本装置をねじで固定する場合には、呼び径3以下(ねじ径 6.5mm 以下)のねじを使用して下さい。
 φ6.5mm 以下 φ3mm 以下

2. 概要

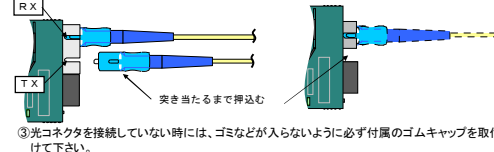


- 【リンク運動機能について】
 本製品にはリンク運動機能 (LPT機能) があります。リンク運動とは、メディアコンバータ (MC) で受信のリンク断を検出した場合にMCの送信をOFFにする機能です。この機能により、MCを挿入して対向する SW-HUB間等の伝送路が切断されたときと、両方のSW-HUBが伝送路の切断を確認できます。
 例えばSW-HUBのマルチポートランキン機能は伝送路のバックアップとして使う場合、この機能がなくと断線時に正常な伝送ができない場合があります。この機能は光部Autonegotiation信号を用いて実現しているため、光部Auto設定時にしか有効になりません。なお、光対向器が1000M固定に対応しますが、光心断の検出できません。UTP断を検出して対向の光側をリンクダウンさせるのみとなります。また、DN1800Eシリーズとの相互接続も可能です。ただし、DN1800E (RevA~C)、DN5810E (RevA~B) と対向接続した場合は、DN1800E、DN5810E側が1000M固定時ではLPTは正常に動作しませんので、LPTを動作させる場合は光Auto・LPT設定で使用して下さい。
 ※対向機器が1000BASE-T Half Duplex 1000BASE-T側機器で1000BASE-T Half Duplex Advertise Mode になっている場合はリンクアップしない場合がありますので正常に動作する設定でお使い下さい。また、光対向器が1000M固定で動作している場合はリンクダウンしない場合があります。あらかじめ相互接続試験を行うことをお勧めします。
 ※DN5810Eシリーズはブリッジスタブのためカスケード接続による多段接続が可能です。リンク運動機能は2台を超えて接続する場合は機能しませんので多段接続時はリンク運動をOFFにして使用下さい。
 ※リンク運動設定でBack to Back接続しますとリンクアップしませんので使用できません。また、光⇄UTP⇄光接続でもリンク運動は動作しませんので使用できません。

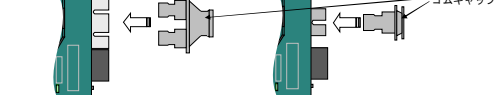
3. 種々の接続・取付け

光コネクタの接続

- 【各シリーズ共通注意事項】
- ① 光ファイバにねじれや無理な力が加わらないように注意し、ファイバの曲げ半径を30mm以上確保して下さい。
 - ② SCコネクタがロックされていることを確認して下さい。
 - ※SCコネクタが突き当たると奥に差込んで下さい。



③ 光コネクタを接続していない時には、ゴミなどが入らないように必ず付属のゴムキャップを取付けて下さい。



【1心用 (WG, WS, WL, WX, WZ) の場合】

- ① 対向側と同じシリーズ (もしくは相互接続性のあるシリーズの機器) の波長違いが接続されていることを確認し、本体にSCコネクタを接続して下さい。
- DN5810WG3E ⇄ DN1800WG5E or DN5810WG5E or DN6810WG5/G/GEモード時等
 - DN5810WG5E ⇄ DN1800WG3E or DN5810WG3E or DN6810WG3/G/GEモード時等
 - DN5810WS3E ⇄ DN1800WS5E or DN5810WS5E or DN6810WS5/G/GEモード時等
 - DN5810WS5E ⇄ DN1800WS3E or DN5810WS3E or DN6810WS3/G/GEモード時等
 - DN5810WL3E ⇄ DN1800WL5E or DN5810WL5E or DN6810WL5/G/GEモード時等
 - DN5810WL5E ⇄ DN1800WL3E or DN5810WL3E or DN6810WL3/G/GEモード時等
 - DN5810WX5E ⇄ DN1800WX3E or DN5810WX3E or DN6810WX3/G/GEモード時等
 - DN5810WZ5E ⇄ DN1800WZ3E or DN5810WZ3E or DN6810WZ3/G/GEモード時等
 - DN5810WZ6E ⇄ DN1800WZ5E or DN5810WZ5E or DN6810WZ5/G/GEモード時等

【2心用(G, SG2, L, Z)の場合】

- ①対向側の TX部と本体側の RX(本体右側部)、対向側の RX部と本体側の TX(本体左側部)と接続して下さい。
- ②対向側に同じ型番の製品(もしくは相互接続性のあるシリーズの機器)が接続されていることを確認し、本体にSCコネクタを接続して下さい。
 - ・DN5810GE⇒DN1800GE or DN5810GE or DN8810/GE(GEモード時) or 1000BASE-SX 機器等
 - ・DN5810G2E⇒DN1800G2E or DN5810G2E or DN8810G2/GE(GEモード時) or DN1800SE or DN5810SE or DN8810S/GE(GEモード時) or DN1800GE E or DN5810GE E等 or 1000BASE-LX 機器等
 - ※対向機器の仕様に合わせてご使用下さい。
 - ・DN5810LE⇒DN1800LE or DN5810LE or DN8810L/GE(GEモード時)等
 - ・DN5810ZE⇒DN1800ZE or DN5810ZE or DN8810Z/GE(GEモード時)等
- ※SG2Eを1.5km以上のMMF(50μm)と組み合わせる場合は1m程度のSMファイバを両方の送信側に接続するとエラー低減・二重効果があります。(但し、光ロスが許容損失値以下であること同様にSG2Eを使用し、帯域が足りないファイバで長距離伝送したい場合も1m程度のSMファイバを使用することは有効です。)

UTPケーブルの接続

- ①RJ-45 モジュラーコネクタを取付けた UTP ケーブルを、本体のモジュラージャックに接続して下さい。
- ※モジュラープラグのレバーロックが「カチッ」と音がるまで確実に差込んで下さい。



※モジュラーコネクタを取外す際には、レバーロック部をモジュラーコネクタ外に押当たした状態でコネクタを引抜いて下さい。引抜かれた状態で無理に引抜くと、モジュラーコネクタやメディアコンバータ本体が破損する恐れがあります。

ACアダプタの接続

【旧ACアダプタ(白地に黒文字シール/本體DCコード品)の場合】

- ①抜け防止を行う場合、固定用ホルダの背面部(旧ACアダプタDCコード固定部)にDCコードを引っ掛けて下さい。
 - ※ケーブルを縦(斜り)方向にした状態で固定部へ挿入し、ケーブルを90度回転させると抜けなくなります。
- ②DCプラグを本体背面のDCジャック部に接続します。
- ※DCプラグが入らなくなるまで押込んで下さい。



【新ACアダプタ(黒地に白文字シール/側面DCコード品)の場合】

- ①抜け防止を行う場合、固定用ホルダの背面内部(新ACアダプタDCコード固定部)にDCコードを引っ掛けて下さい。

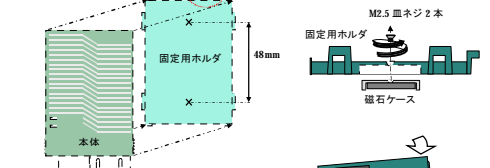
- ②DCプラグを本体背面のDCジャック部に接続します。
- ※DCプラグが入らなくなるまで押込んで下さい。

- 最後に電源プラグ(ACアダプタの本体部)をACコンセントに確実に差込んで下さい。
- ※ACアダプタは専用のものをお使い下さい。
- 側面DCコードを太極DCコード固定部に取付けると抜ける場合がありますのでご注意ください。**

装置の取付け

本装置は、ほこりや湿気が少ない(直射日光の当たらない場所)に設置して下さい。横置きで使用する場合には、落下の危険がない平坦な場所に設置して下さい。金属部に磁石が固定されている場合には、付属の固定用ホルダに磁石ケースを取付けて下さい。(出荷時に取付け済み) 壁掛けで使用する場合には、磁石ケースを取外して壁面等に木ネジ等で取付けて下さい。磁石ケースを取付けたままネジ締めを行うと、固定用ホルダが変形することがあります。

- 【ネジ固定時の下穴位置】
- 【ネジ固定時の磁石ケース取外し】



※固定用ホルダに本体を取付ける場合は、固定ホルダの片側面の爪に引っ掛けてから反対側を押込んで下さい。

※固定用ホルダから本体を取外す場合は、片側の爪(前後2箇所)を軽く開きながら本体を引抜いて下さい。



4. 接続状態の確認

電源の確認

- 添付のACアダプタをACコンセントに差込み、DCプラグ本体に接続した状態で本体表示LEDの「Pow」が黄色に点灯していることを確認して下さい。

UTPケーブルの確認

- UTPケーブルを10/100/1000BASE-T対応の機器(パソコンやルーター、スイッチングハブ等)に接続し、本体表示LEDの「TX LK/Act」が緑色に点灯(もしくは点滅)することを確認して下さい。
- ※UTPを介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。
- ※LPT設定状態時には、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれUTPで接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に配線していないと確認できません。
- ※リンクアップした状態で、本体表示LEDの「1000M」と「FDX」の点灯状態により、本装置の速度及びモードを確認して下さい。

- 「1000M」点灯、「FDX」点灯……1000M全二重
- 「1000M」点滅、「FDX」点灯……100M全二重
- 「1000M」点滅、「FDX」消灯……100M半二重
- 「1000M」消灯、「FDX」点灯……10M全二重
- 「1000M」消灯、「FDX」消灯……10M半二重

光ケーブルの確認

- 光側対向機器と光ファイバを接続した状態で本体表示LEDの「FX LK/Act」が緑色に点灯(もしくは点滅)していることを確認して下さい。

- ※光ケーブルを介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。
- ※LPT設定状態時には、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれUTPで接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に配線していないと確認できません。
- ※Auto設定時は、光対向側も同様にAutonegotiation設定にならないでリンクアップしません。(UTP側及び光2心共接続しておく必要があります)



1000M/FDX LEDが点灯しない

- 確認①: UTP側Autonegotiation設定時でUTPポートはリンクアップしていますか? リンクアップ時に速度とモードの状態を表示します。
- 確認②: 速度及びモードの設定は合っていますか? 本装置をAutonegotiation設定している場合、UTPで接続している機器が全二重固定設定だと本装置は半二重でリンクアップする場合があります。 UTPで接続している機器をAutonegotiation設定にするか、本装置を対向機器と同じ速度及びモードに固定設定して下さい。 また、本装置の速度及びモードを固定設定とした場合、UTPで接続している機器が本装置と異なる設定だと設定とは異なる状態でリンクアップする場合がありますので、固定設定をする場合には必ず同じになるように設定して下さい。

設定が変更できない

- 確認①: SNMPで設定できていませんか? ラックオプション(DN-HD12/HD12E等)に実装してご使用されている場合、SNMPモジュールからの設定が有効になっていると、本装置の設定スイッチを切替えても設定は反映されません。SNMPモジュールの設定をご確認して下さい。(詳しくはSNMPユニットの取扱説明書をご確認ください)

- ※LPT設定時でリンクアップしない場合は、光側1000M/LPT無しの設定に切り替えてみて下さい。 それでもリンクアップしない場合は光側の伝送路及び対向側の機器設定が1000M全二重設定になっていないかUTP側の伝送路及び対向側の機器設定が異なる場合があります。
- ※リンク運動が必要な場合は、光側1000M/LPT無しか光側Auto/LPT無しの設定でお使い下さい。 リンクアップしない場合は、1000M/LPT無し設定でリンクアップするか確認して下さい。 正常にリンクアップしたら対向側の光設定が1000M固定設定で動作しています。(光部対向装置の仕様より1000M固定設定でしかリンクアップしない場合があります)
- ※上記設定は、全て光側に接続する機器の仕様に合わせて全二重でリンクアップするようにお使い下さい。
- ※設定SWはゆっくりと切替えて下さい。 設定SWの切替をすばやくすると設定を正常に読み込めない可能性があります。 一番上〜下への切替時も確実に真ん中の位置に一旦入った事を確認後切替えて下さい。

特定のケーブルだけ通信できない

- 確認①: 1633Byte以上のパケットではないですか? 本製品はブリックタイプ/メディアコンバータでのパケット長やエラーパケットのチェックを行っています。ショートパケット(63Byte以下)やロングパケット(1633Byte以上)およびエラーパケットは破棄します。御使用のパケット長の確認をお願いします。

5. SWの設定及び注意

S W の 設 定

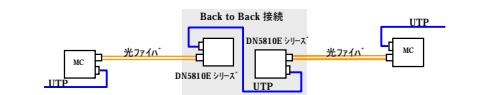
- SWの設定は、精密ドライバー(マイナス)やシャープペン先等の細いものを用いてSWレバーを押下げ(または押し上げ)して下さい。

- ※速度設定を変更した際は、本装置は瞬時的にリセット状態になります。 設定変更時以外は不要にSWに触れないように注意して下さい。

- ※別売のサブラック(DNH12E等)にメディアコンバータを実装して、オプション品「SNMPユニット」から設定を行っている場合には、手動によるSWの設定が有効になりません。

設定時の注意

- ①UTP対向側の機器が固定設定(速度・モード)の場合には、必ず本装置も対向機器の速度・モードと同じになるよう固定設定して下さい。 ※設定が異なる場合には、リンクアップしなかったり、設定とは異なる速度・モードでリンクアップする可能性があります。
- ②光部対向側の機器がAutonegotiation設定(LPT設定含む)設定時には必ず本装置の設定をAutonegotiation(LPT設定含む)設定して下さい。 ※設定が異なる場合はリンクアップしなかったり、通信できない可能性があります。
- ③LPT設定時は対向接続したメディアコンバータの設定もLPT設定して下さい。 ※異なるリンク異常状態を伝えることができないためLink Aggregation等のトラッキング用途で正常に動作しない可能性があります。
- ④本装置はBack to Back接続により伝送距離の延長を図ることが可能です。 この場合、Back to Backで対向して接続する機器がLPTモードに設定されているとリンクアップおよびリンクダウンできない場合があります。 Back to Back接続を行う場合は、本装置及び対向機器のLPTモードを解除してご使用下さい。 LPTモードでご使用になる場合はDN5810E/スィス同士を組合せて2台以内でご使用下さい。 UTPポートの設定はAutonegotiationまたは1000M設定でご使用下さい。 LPTモード時や10M/100M固定設定時はBack to Back接続はできません。



環境対応10/100/1000BASE-T/XメディアコンバータDN5810Eシリーズ保証書

ロットNo. S/N (印字部は非表示)	お客様(御社名)
	お名前(ご担当者名)
	ご住所
	お客名
	T E L
	F A X
	ご購入日
	年 月 日
	保証期間
	ご購入日より5年間(センドバック式)
	販売店
	販売所
	住 所
	T E L
	備 考

- *保証外条件 保証期間内であっても、次の場合は保証外となりますのでご了承下さい。 1. 取扱説明書に記載の使用法や注意事項違反のお取り扱い及び不当修理や改造によって生じた故障及び損傷 2. 自然災害、地震、風水害、落雷、その他天災地災及び指定外の使用電圧による故障及び損傷 3. 生じた故障後の輸送、移動中の落下等、お取り扱いが不適当なために生じた故障及び損傷
- 『営業窓口』大電株式会社 ネットワーク機器部 営業課
- コールセンター(付かず録音・応答) ☎ 0120-588-545 (携帯・PHSにも対応) e-mail: comminfo@dyden.co.jp
- 東京 113-0033 東京都中央区本郷2-3-9 ツインビュー御茶ノ水3階 TEL (03)5684-2100(代表)
- 名古屋 146-0002 愛知県名古屋市中区丸の内1-15-20 丸の内ビルディング4階 TEL (052)211-1888(代表)
- 大阪 541-0041 大阪府中央区北浜4-7-28 住友ビルディング2号館1階 TEL (06)6229-5333(代表)
- 福岡 749-0412 福岡県三基郡基山町2100-19 TEL (0952)52-8546(代表)

L P T 設 定 時 の 注 意

- 本装置はUTPの速度設定に関わらずLPT機能が動作します。また、DN1800Eシリーズ(DN-1800シリーズ含む)との互換性もあります。ただし、以下のような制限があります。以下の制限を守らないと正常に動作しません。
- ※UTP側の速度設定が「Autonegotiation」の場合は必ず対向機器側も「Autonegotiation」に設定して下さい。

- ※UTP側の速度設定が「速度固定」の場合は必ず対向機器側も「同速度で固定」に設定して下さい。

- ※LPT設定時は、UTP対向側の機器が1000M&半二重サポート状態だとリンクアップしない場合がありますのでその時は対向側の機器設定を1000M&全二重の設定でご使用下さい。

- ※光側の対向機器が光1000M固定設定/Autonegotiation設定が選択できる場合は、光側の対向機器を「Autonegotiation」に設定して下さい。光側の対向機器を「1000M固定設定」にした場合はUTP断検出のみとなり、光1心断は検出できません。

ラックオプション(DN-HD12)搭載時の注意

- 本装置は専用サブラック(DN-HD12)に搭載するときは以下のような制限があります。以下の制限を守らないと故障の原因となります。
- ※最大搭載数量は6台です。

- ※DN-HD12の搭載箇所は上段のみです。
- ※上段に本装置が搭載されている場合は下段には当社他製品は搭載できません。
- ※DN-HD12およびSNMPユニットの取扱説明書もご確認ください。
- ※環境対応サブラックオプションDNH12Eに収納する場合は上記の様な制限はありません。

6. こんな時は

- 故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。
- 【Pow LEDが点灯しない】
- 確認①: ACアダプタは専用のものを使用していますか?
- 確認②: ACアダプタの本体部はコンセントにきちんと差し込み、符号まで接続されていますか?
- 確認③: ACアダプタのDCプラグ部はメディアコンバータ本体のDCジャック部にきちんと根元まで接続されていますか?
- 確認④: 低電圧減速していませんか? MCの内蔵電源が故障している可能性があります。(一旦返却下さい)